

第46回原産年次大会 プログラム

基調テーマ：原子力ゼロ？ ―― 世界がつきつける日本の責務

平成25年4月23日(火)～25日(木)

ニッショーホール(日本消防会館)

ウェルカム・レセプション

4月23日(火) 17:30～19:00

(於：東海大学校友会館)

開会セッション

4月24日(水) 9:30～13:00

2011年3月の福島第一原子力発電所事故により、原子力に対する国民の信頼は根底から損なわれた。このような民意を反映し、日本政府は将来的に原子力に依存しない電源構成を目指すことを決定した。

このセッションでは、政府の決定が、日本の国民生活や産業経済活動のみならず、国際社会にどのような影響を及ぼすのかなどについて、原子力を含むエネルギー問題や科学技術と社会の関係などの問題に造詣の深い各国・各機関を代表する専門家の方々からご講演いただき、日本の将来のエネルギー政策・原子力政策のあり方を考える。

◆原産協会会長所信

今井 敬 一般社団法人 日本原子力産業協会 会長

◆経済産業省挨拶

高原 一郎 経済産業省 資源エネルギー庁 長官

◆特別講演

ジャック レガルド 世界原子力発電事業者協会(WANO) 議長
「安全性向上のために事故の教訓を世界で役立てる」

アグネタ リーシング 世界原子力協会(WNA) 理事長
「これからの原子力リーダー」

笠木 伸英 独立行政法人 科学技術振興機構 研究開発戦略センター 上席フェロー
「政策と社会に科学者の助言を活かすために ―福島原子力発電所事故から学ぶ―」

ピーター ファロス 欧州委員会(EC)エネルギー総局 副総局長
「エネルギーロードマップ 2050」

ハットン卿 英国原子力産業協会(NIA) 会長
「英国での新規原子力発電所建設計画」

セッション1

4月24日(水) 14:30~18:00

エネルギーミックスのあるべき姿を考える ― 日本の選択

発展途上国の人口増加や新興国を中心とした経済発展により、世界のエネルギー需要は今後一層の増大が見込まれる。各国は、将来にわたる持続的発展をはかるため、エネルギー安定供給の確保、地球温暖化問題への対応、そして経済性を考慮し、適切なエネルギーミックスを確立すべく戦略的取組を強化している。

このセッションでは、国内外の専門家をお招きし、エネルギーの安定供給をめぐる諸課題についてそれぞれの立場から問題提起いただき、今後日本がグローバルかつ長期的視点に立ったエネルギー政策・原子力政策を議論する際の一助とする。

◆**議長**：田中 伸男 一般社団法人 日本原子力産業協会 理事
一般財団法人 日本エネルギー経済研究所 特別顧問
元 国際エネルギー機関(I E A) 事務局長

◆**講演**

葛西 敬之 東海旅客鉄道株式会社(J R 東海) 代表取締役会長
「21世紀の世界情勢と日本のとるべき道」

クリストファー グイス 米国商工会議所 21世紀エネルギー研究所 副理事長
「エネルギーセキュリティ上のリスク ― 世界と日本の比較」

ファハド アルカータニ エミレイツ ニュークリア エナジー コーポレーション
(E N E C) 国際・広報担当理事(アラブ首長国連邦)
「U A Eにおける原子力発電開発 ― プログラムの最新情報」

ヴァーツラフ バルトウシュカ チェコ共和国外務省 エネルギー安全保障特使
「チェコ共和国 ― 原子力はなお有意義であることをいかに示せるか」

知野 恵子 読売新聞 編集委員
「エネルギーミックスのあるべき姿を考える ― 日本の選択」

山地 憲治 公益財団法人 地球環境産業技術研究機構 理事
「S + 3 Eを実現するエネルギーミックスへの挑戦」

セッション2

4月25日(木) 9:30~12:30

信頼の構築をめざして ―― 世界と共に考える安全性向上に向けた取組

福島第一原子力発電所の事故は原子力の安全性に対する社会の信頼を根底から損ねることとなり、世界の原子力開発計画に大きな影響を及ぼした。原子力の安全を根底から見直し、今回のような事故を二度と起こさないために、事故の教訓を世界で共有し、原子力発電所の安全性の向上に役立てていくことが求められる。

このセッションでは、現在世界各国で行われている安全性向上のための取組について情報共有し理解を深めるとともに、国際標準となりうる、頑強で信頼性が高く、より実効的・効果的・効率的な安全技術を確立し、一般公衆の信頼を再構築していくことの必要性について議論する。

◆**議長**：岡本 孝司 東京大学 大学院 工学系研究科 教授

◆**講演**

デニス フローリー 国際原子力機関(IAEA) 事務次長

「世界における原子力安全と核セキュリティの強化：継続的な国際的課題」

アンドレ・クロード ラコスト 前 フランス原子力安全庁(ASN) 長官

「原子力の安全性における規制の課題」

レオニード ボリショフ ロシア科学アカデミー原子力安全研究所 所長

「チェルノブイリ事故および福島事故を受けた安全性改善へのロシアの取り組み」

松浦 祥次郎 一般社団法人 原子力安全推進協会(JANSI) 代表

「新しい原子力安全パラダイムへの挑戦」

ウィリアム・マグウッド 米国原子力規制委員会(NRC) 委員

(ビデオメッセージ)

セッション3

4月25日(木) 14:00~17:30

復興への道筋 —— 海外の知見に学ぶ

福島第一原子力発電所の事故から約2年が経過するが、未だに多くの住民の方々の帰宅の目処は立たず、福島の復興に向けた課題は山積している。被災した自治体の再生には、除染やインフラなどの居住環境の整備と共に、産業や経済の回復も必須であり、復興に向けた道筋を着実につけていくことが重要である。

このセッションでは、「福島の復興は世界と共に行うべき取組」との観点に立ち、これからも続く復旧・復興に向けた長い道のりのなかで、それぞれの関係者が果たすべき役割について、海外の知見も踏まえて考える。

◆議長：山名 元 京都大学 原子炉実験所 教授

◆パネル討論

ジェリー トーマス インペリアル・カレッジ・ロンドン 教授
チェルノブイリ組織バンク 所長

渡辺 利綱 大熊町長

ボロディミール モスカレンコ ウクライナ コロステン市長

新妻 常正 東京電力株式会社 常務執行役 福島本部 副本部長

伊藤 仁 復興庁統括官（浜田復興副大臣 代理）